

PART 25

～学校で露出命令⑤～

《高校生、という言葉にさっと緊張する店内》

「しおりって店員はいるけど、高校生はいないわ」

「ポニテの子にスク水で客引きさせてましたよね」

「涼川栞ちゃんもポニテなんですよ」

《店の奥で四つん這いのまま息を潜める栞》

「これ、入れてもいいかな？」

「先っぽだけならいいですよw」

「駄目え！ん、んぐうう！」

「栞ちゃんの悲鳴だ！」

「やっぱり中にいるんでしょ！」

「駄目よ。高校生は店内に入れません」

「この辺がクリちゃんかな？」

「く、くううっ」 (声を出しちゃダメっ)

「絶対中にいる！」 「栞ちゃん、助けに来たよ！」

「こら、中に入るな！」 「警察に訴えますよ？」

「こっちに来るぞ」 「何か着させて！」 「これとこれで、

顔は隠してやる」 「口を開けろ」 「ん、んぐう」

《制服姿の4人の男女が店の奥に入ってくる》

「きゃっ!」 「え、裸!」 「うわっ!」

「この子が店員のしおりちゃんよ」

「結花」 「なんでこんな格好?」 「仕事だからよw」

「……」 (クラスメイトの前で、私、裸……でも、声を出したり恥ずかしがったりしたら私ってバレちゃう)

「栞ちゃんに似てる、よな?」 「ああ、そっくりだ」

「栞ちゃんでしょ、どうしてこんなことしてるの?」

《黙って首を振る栞》

「違うわよ。栞ちゃんにわざと似せてるのよ」

「え、どういうこと?」

「このコ、20過ぎなのに、ミスS学園の涼川さんに似てるから、わざとポニテにしてリボン付けてるのよ」

「つまり、営業用に似せてるってこと?」 「呆れたあ」

「なーんだ」 「涼川が全裸でバイトする訳ないしw」

「もういいかしら? 高校生は早く帰りなさい」

「一応、顔を確認したいです」 「俺も!」 「確かに」

「この子は顔バレなしが条件なの。だから無理」

「だけど、栞ちゃんの名誉も毀損してますよね？」

「S学園のリボン無断使用も問題ですよ？ 学校や警察に相談されたら困るんじゃないですか？」

「……」(いやっ、警察や学校に相談されたら、私……)

「困ったわねえ。そのくらい見逃してくれない？」

「じゃあこれで証明すれば？」 「はい、しおりちゃん」

「えー、なんですか、それw」

《マリに囁かれ、乳首ローターを受け取り、乳首につける栞。ローターを手に持ち、躊躇う》

「この子の特技、ローター3つでイけちゃうのよ」

「もしかして、乳首とアソコにローター付けて、リモート操作で絶頂しちゃうってこと？」

「確かに栞ちゃんにできるわけないなw」

「ね、証明になるでしょ？ あなたたち、リモコン操作してみる？」 「やります！」 「嬉しそうねw」

(そ、そんな！ 絶対に嫌あ！)

《自らローターを秘部に挿入させられた栞》

「栞ちゃんが絶対できないポーズさせようよ！」

「じゃあ、M字開脚！」 「確かに絶対無理w」

「……」 「お客様のご命令には従わなきゃダメよ」

（お願い、見ないで……） 《ゆっくり脚を開く》

「焦らしプレイw」 「さすがプロだねw」

「おお、ぱっくり！」 「目は閉じちゃダメ！」

（ああ、全部見られてる……）



「ミスS学園の涼川栞ちゃんが衝撃ポーズw」

「ちよっと、栞ちゃん本人じゃないからねw」

「まあ、似せてるんだし、本物ってことにしようよ」

「今日は栞ちゃんになりきってもらおう！」

「クラスの男子にアソコ見られてどんな気持ち？」

（言わないで！ もういやあ）

「脚がカタカタ震えてるw」 「演技うまいねw」

「3つのローターはアプリで操作できますので、皆様、こちらからダウンロードしてください」

「へえ、このアプリで？」 「どこを押すと？」

「く、くうう！」 《左右の乳首ローターが振動》

「声も栞ちゃんにそっくり！」 「まさか本人？」

「ガラスの美少女をリモートローター責め、いいねえw」

「じゃあこつちを押すと？」

「ひ、ひいっ！」 《腰をビクビク震わせる栞》

「全部押すと？」 「あ、あああっ！」

《3点責めに栞が口を開いて悶え、バイブを落とす》

「あ、だめっ…！」 (声を出しちゃダメ！)

「口まで栞ちゃんっぽい！」 「でも本人じゃないな」

「当たり前でしょ」 「栞ちゃんのわけないじゃない」

(お願い、気づかないで！)

「このスライダーで強弱やリズムも調整できますよ」

「よし、栞ちゃんをイカせる最適パターンを探そう！」

「おもしろそうw」 「これは？」 「く、くうう…」

《3つのローターでさんざん弄ばれ、5度目の絶頂で失神してした栞を見下ろす同級生たち》

「気持ちよさそうに寝ちゃってw」「ビーチでも素っ裸で寝てたよね」「生で見ると百倍興奮する!」

「それじゃ、これも御開帳!」

《アイマスクをずらされ、素顔を晒される栞》

「はい、記念撮影!」

「ごうやったらローター出てくるよね?」

「あそこから半分出て止まった!」「意地悪ねえw」

「完璧にアプリマスターしたなw」「栞ちゃんがどこで感じるかもばつちり覚えたよw」

「…ん、んん…え?」《うつすらと目を開ける栞》

「おっと」「いっしょってこと」「あ、あ、ああ……」

「あっさり失神w」「Gスポット責めに弱いねw」

「ん、ん…えっ? きゃあっ」

《失神から醒めると同時に身体を持ち上げられた栞》

「やっと起きた? 記念撮影タイムよ」

「え、写真はちよつと…あ」《慌てて口を閉じる栞》

「え、写真ダメ?」「嫌なら言ってくれば」

「…」(本人とばれなければいいんだから…)

「はい、撮りまーす。みんな笑ってー」

(こんな格好で写真なんて、いやああっ)

「うっわ、すごい格好!」

「二つの穴丸出しでよく笑えるねw」

「これが本物の栞ちゃんだったらいいのに」

「無理言うなよw」(大丈夫、バレてないわ…)

《突然、秘部の中のローターが振動し始める》

「え? あ、あっ、ああんっ」

「どうしたの、栞ちゃん？」

「急に悶えないでよw」《スマホを弄っている》

《Gスポットを狙う振動がさらにリズムミカルになる》

「あ、あんっ！ だめえっ、と、止めてえ」

「何を止めるの？」 「はつきり言ってくれないとね」

「栞の、おま○この中のローターを止めてください！」

「栞ちゃんに本当になりきってるねw」

「こうすると出てくるかな？」

「だめえっ、は、はううっ」

《ローターが膣内を抉りながら移動し膣口付近で停止》

「…ここまでね。あとは自分で出して」

「腰を振ってあげるよ」 「ほら、栞ちゃんも振って！」

「え、そ、そんな… ああんっ、あっ、あっ」

《ローターから逃れようと腰を振り出す栞》

「あ、あっ、ああ…」 「よし、出たー！」

「栞ちゃんのローター産卵ショーw」 「しかも失神w」

「すごいーいw」 「じっくり動画に撮りましたよ」

《再び失神した栞がようやく目を覚ます》

「やっと起きたね」 「確かに栞ちゃんとは別人ね」

「本物だったら全裸M字で産卵シヨ―は絶対しないしw」

「…あの、何か服をください」 (みんな、早く帰って!)

「それはいいんだけど、その前にリクエストみたいよ」

「最後に、栞ちゃんっぽく挨拶してほしいな」

「え、挨拶、ですか?」

「なりきって、こんな風に言つてよ…」 《栞に耳打ち》

「…はい…」 (西川くん、ひどい)

《全裸でダブルピース、ローターとバイブを持つ栞》



「私、S学園2年1組の涼川栞は、学校では優等生ですが、実は大勢の人に恥ずかしい姿を見られると興奮しちゃう、変態です。今日は、セクキャバでアルバイトをして、同級生の男子の前で、全裸M字開脚をして、乳首ローターとおま○このローターで何回もイッちゃつて、とっても気持ちよかったです!」

「あはは、最高!」 「本物だったら店がつぶれるわw」

「栞ちゃんバイバイ!」 「また明日学校でね!」

「明日会ったら興奮しそうw」 「変な目で見るなよ、本

物は清纯なんだからw」 「本物だったら退学でしょw」

《同級生4人がようやく退店》

「お疲れ様。学生さんたちは納得してくれたみたいよ」

「はい…では、スクール水着を返してください」

「はい、どうぞ」

《急いでスク水を着る栞。しかし着てから驚愕》

「こんなの、ひどいです!」《両手で身体を隠す》

「嫌なら素っ裸で帰ることね」

「そ、そんな…」

「まずは手を後ろで組んで、皆様によく見せなさい」

「はい…」(ひどすぎる、こんなの)

《穴あきスク水に大喝采の店内》

「あはは、よく似合ってる!」《変態優等生さんw》

「それで学校の授業受けなよ」《男子が喜ぶよw》

「結局、お友達から1円も稼げなかったし、あと、路上で駄目にした制服も弁償金に加算させてもらっわよ」

「そ、そんな…もう、許してください」

「じゃあどうやって返すつもり? 合計30万だけど」

「30万なんて、すぐには無理です。少しずつ…」

「待てないわ。1週間以内に返してくれないと」

「では、どうしたら…」

「大丈夫よ。あなた、須藤さんと知り合いなのよね？」

《マリがスマホをかざし、スピーカーをオンにする》

【須藤】『よう、ずいぶん楽しいバイトしてるなw』

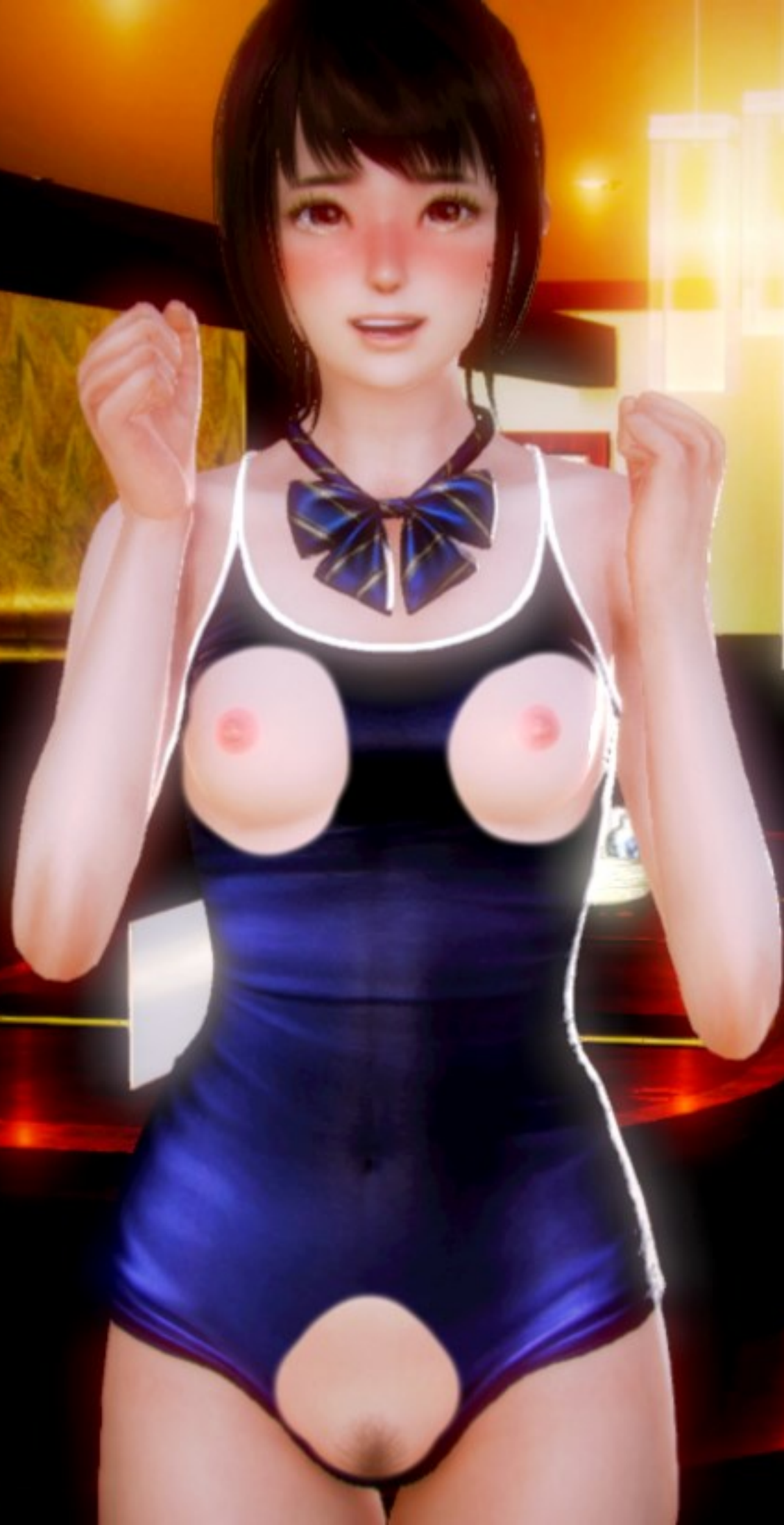
「須藤さん！」（あなたの命令のせいでしょ）

「須藤って、カメラマンの？」 「すごいじゃん」

「あなた、須藤さんに撮ってもらってるんでしょ？ ウチのお客様にもそれを見せなければ、弁償金分はみんなで負担してくれるって」

「学校で撮影するんだよね？」 「応援するよー」

「ありがとうございます…」



『どんな格好で学校に行くのか、言ってみろ』

「はい…ノーパン・ノーブラで行きます」 「おおお！」

「あと、ウチのお客様からのリクエストにも応えてくれるわよね？」 『ああ、無理のない範囲でだけだな』

「この格好でプールの授業は？」 「そりゃ無理だろw」

「わかったら、笑顔で皆様にご挨拶！」

「…皆様、ご支援ありがとうございます。明日からは、学校でエッチな格好をたくさんしますので、よろしくお願いします！」 （何言ってるの、私……）

《常連客に貸してもらった大きめのジャケツトを羽織ってなんとか帰宅した栞。帰宅後に、早速支援客たちへのご挨拶を指示されている…》

「お客様、本日は大変ありがとうございました。涼川栞、皆様に裸を見てもらって、触ってもらって、いくところまで見てもらって、とっても気持ちよかったです」

《鏡に向けてダブルピースする栞》



「この水着、エッチに加工していただいても嬉しいです。」

もし、明日からノーパンノーブラでなかったり、皆様のご指示に逆らった場合には、この格好で学校の授業を受けることを誓います…どうぞご支援、よろしくお願いいたします」(動画は保存できない仕組み、って本当よね…それに、破滅するような命令は絶対しないって、最後に約束してもらったし)

PART 26

～学校で露出命令⑥～

《翌朝。指示通りノーパンノーブラ、ミニスカートで乗客のいない早朝の電車に乗った栞。耳にはインカム》

「須藤」『リモートカメラも持ってるな。電源を入れて、反対側に貼り付けるんだ』

「はい…これでいいですか？」 《裏が粘着式のミニカメラを通路の反対側に貼り付け、レンズを自分に向ける》

『ああ、よく映ってるぞ…せっかくの可愛いミニスカートなんだから、鞆で隠すなよ』

「でもやっぱり、恥ずかしいです……」



『あははっ。昨日は素っ裸でワインを売って、四つん這いで二つの穴を全員の客に見せて回ったのに、今さらミニスカートが恥ずかしいのか？』

「やめてっ、言わないでください……」

『指示に逆らって俺に命令するつもりか？……ペナルティを受けてもらわないとな』

「許してください。この格好だけで十分恥ずかしいです」

『駄目だ。ペナルティは、…支援者の皆さまへの挨拶でもしてもらおうか』

『スカートを思い切りたくし上げるんだ。ケツが丸出しになるくらいにな』

「そ、そんな……電車の中でそんなこと、できません」

『これ以上逆らうと、昨日の動画を学校に公開するぞ』

「絶対駄目ですっ！ わかりました……」《仕方なくスカートをたくし上げるが、手と鞄で尻を隠す栞》

『まだ隠すか……まあそれもいいか。その格好でカメラを見て、皆様に挨拶するんだ。こんな風にな……』

「皆さま、おはようございます、涼川栞です。ご支援のお礼として、私のノーパンノーブラ生活を5日間、お楽しみください！今は、電車の中で尻丸出しです！」
(いやあ、こんなの！ 誰かに見つかったら……)

『うん、まあいいだろ。それじゃあ次、こっちを向くんだ』

「え、まだ続くんですか……」

『早くしないと次の駅に着くぞ。乗換駅だから大勢乗ってくるけど大丈夫か？』

《やむなく、スカートを託しあげたまま、カメラに正面を向ける栞。やはり股間は鞆で隠す》

『ほら、皆様にお話しするんだ！ ポーズごとに、露出が好きですつて感じてな』

「そ、そんな……今、栞はアソコも丸出しで電車に乗っています。とつても、恥ずかしいです……」



『うん、焦らしプレイとしてはなかなかいいぞ。その調子で5日間、頑張れよ』

「……」(1日だつて無理よ。早く終わつて……)

『それじゃあそろそろ、次のポーズいくか……スカートはそのままで、鞆を置くんた』

「そ、そんな、お願いです！」

『いいから早くするんだ』

「鞆を置きました」 《両手で裸の股間を庇う栞》

『じゃあ次、両手でジャケットとブラウスを開いて、ノーブラを見てもらうんだ。スカートはそのままな』

「…どうしても、しなくちゃダメですか…」

『焦らしプレイか？ 早くしないと駅に着くぞ』

「はい…」 (みんなにはもう、見られているんだし…それよりも駅に着く前に終わらせてもらわないと

《電車の中で乳房と股間を露出させる栞。顔が真っ赤になり、脚ががくがく震えている》



「これでいいですか？」 《減速を始めた電車に焦る栞》

『朝から電車ですごい格好だなw よし、そのまま笑顔で挨拶できたらここは終わりでいいぞ』

「…栞、電車の中で、アソコも、おっぱいも丸出しにしちやつて、とつても気持ち、いい、です…」

『なんだその顔は？ 露出して嬉しいってにっこり笑顔でもう一回！』

「ご、ごめんなさい、でも、もう無理です！」 《駅のホームがすぐそこまできていて、慌てて服を直す》

『ようやく学校の最寄り駅に到着。学校への道をゆつくり歩く栞。時おり風が強く、スカートが気になる』

『あちこちに定点カメラを仕込んでいるから見せつけるつもりで歩くんた』

「公道では許してください…」

『電車ですごりできてればよかったんだけどな』

「もう、逆らいませんから…」

『しかもこれは支援者様からのリクエストだ。学校で穴空き水着を着たくなかったら、両手を振って歩くんた』
『不安そうに周囲を見回す栞。まだ早いと、他の通行人は見えない』

「分かりました…」 (破滅するような命令はしない約束、
なんだから)

《風に揺れるスカートを気にしながら、恐る恐る両手を横に下ろし、歩き始める栞》

『後ろには誰もいないから普通に歩くんだ』

「はい……きやつ」 《いきなり風が吹き上げ、スカートが捲れて尻が露出》

『誰も見てないから気にするな。そのまま歩け』

「え、こんなの……」 《スカートがひらひら舞い続ける》

《尻を露出して歩く映像を見て盛り上がるギャラリ―》

「栞ちゃん、今日は制服尻チラで通学w」「昨日の全裸ローター絶頂シヨもいいけど、ライトなのもいいね」「可愛いお尻がプルプル震えてるw」「恥ずかしがってるのがいいね」「もっと苛めたくなるw」「フアंकクラブ入っててよかった」

《スクランブル交差点に差し掛かり、不安で周囲を見回す栞》

『大丈夫、まだお前の後ろには誰もいないから』

「はい…」（誰もいなくたって恥ずかしいのに…）

《突然つむじ風が吹き、スカートが完全に捲られる》

「きゃ、きゃああっ！」 《必死に前を押さえる栞》

「おお！」 「定点カメラの位置最高！」

『こら、笑顔はどうした？』

「無理です！」 《恥ずかしさに目を瞑る》

《風がなかなかやまず、尻が丸出しのまま立ち尽くす栞》

『おっと、後ろから何人か来るぞ！ ケツを隠した方がいいんじゃないか？』

「え？ い、いやあっ」 《パニックになり、慌てて両手を後ろに回す栞》

《両手を後ろに回しスカートを押さえる栞。風は強弱をつけて吹き続け、今度はスカートの前が捲れる》

「きゃっ、きゃあっ」

『おっと、もう後ろに人が見えるから、尻は隠した方がいいぞ』

「え、でも…」《フリーパンのスカートの前が捲れ、ちらちら栞の裸の股間が露出している》

『大丈夫、前に人はいないだろ？』

「そ、そうですけど…」（人がいなくなつて…）

《実は後ろに人などいなかったが、栞には分からず、裸の股間を前方に晒しながら交差点を歩くしかない》

『どうだ、マンチラしながら通学路を歩く気分は？ お客様のご要望だ。笑顔でレポートしてみろ』

「…涼川栞は今、いつもの通学路をノーパンで歩いています。風が吹いて、アソコが見えちゃってるのが、とっても気持ちいいです…」（もう、いい加減にして！）

『あはは、うまくなってきたじゃないか？ この先は、学校に着くまで隠してもいいぞ』

《学校前。緩やかな風が吹き続け、スカートの裾をひらひらと持ち上げ、太ももの付け根までが露わになる》

「いやっ！ 学校では隠させてくださいー！」

『こんな早くに来る奴はいないだろ。定点カメラで監視もしてるし大丈夫だ。絶対に隠すなよ』

「そ、そんな……きやつ」 《スカートがふわっと捲れ、焦る栞》

『お、可愛いケツが半分見えてるぞw』

「やっぱり無理です、こんなの……」

『逆らったらペナルティだぞ。穴あきスク水で授業を受けたいのか？』

「わ、分かりました」

「分かったら今の状況を実況してみろ」

「……涼川栞は、お尻を半分出して、学校の門を入るところです……とつても気持ちいいです……」

《教員室の前の壁を見て悲鳴をあげる栞》

「きゃっ、いやあっ」

『よく撮れてるだろ？ お前が命令に逆らった罰だ』

「もう絶対に逆らいませんから許してください」

『本当だな？ じゃあ剥がしてもいいぞ』

《慌てて写真を剥がす栞》

「これ、誰かに見られてませんか？」

『大丈夫、ちよつと前に貼ったばかりだからな』

「他には貼ってないですよね？」

『ああ。その代わり、条件がある…』



《自分のクラスの教室に入った栞》

『まずは、教室の指示した部分にカメラを付けて生中継できるようにするんだ…』

「え、授業中も中継するんですか？」

『当たり前だろ。他にも指示があるから急げ！』

《小型カメラを教室各所に設置した栞》

「設置しました」

『チヨークを持って黒板に向け。スカートは思い切りたくし上げて尻を丸出しにしてな』

「はい…」（もし今誰か来たら、私、終わりだ…）

涼川栞は露出



『よし。それじゃあ黒板に「涼川栞は露出大好き」って書くんだ…ケツを振りながらだぞw』

「そんな…はい」（言うとおりにするしかないのよ）

《栞がぎこちなく尻を振る映像はVIP会員に生配信。クラスメイト達も裏チャットで盛り上がる》

（涼川が学校で露出！）（プリケツ、最高！）（優等生の露出狂宣言w）（少し字を変えてるw）（ごまかしでも生中継でクラス全員見てるんだけどw）

《屈辱の言葉を黒板に書いた栞》

「これでよろしいですか？ 早く消さないと…」

『その前に、スポンサーの皆さまに朝のご挨拶だろ。胸も出して、こう言うんだ…』

「…おはようございます。涼川栞です。昨日は資金の援助、大変ありがとうございました。お礼に今日から5日間、ノーパンノーブラで学校生活をします。とっても楽しみです…」（早く、早く終わって！）

『楽しそうに笑えよ』 「は、はい……」

涼川栞は露出大好き！
いつもノーパンノーブラ！



《結花たち3人は学校近くのカフェでモニターを閲覧》

【結花】 「朝からすごいわねえ、栞ちゃんw」

【奈々】 「まさかホントに学校でやるなんてねえ」

【由愛】 「脅迫されても普通できないよね。実は本当に喜んでたりしてw」

『よし、それじゃあ消してもいいぞ』

【はい】 《慌てて服を戻し、黒板の字を消す》

『まだ早いから、近くのカフェで時間を潰すんだな』

【分かりました】 《教室を出ていく栞》

「それじゃあ行きましようか？」 「はい」